

みちのり

松倉秀子さん 1943年生まれ。出生地不明。兵庫県尼崎市在住。中国名・馬秀蘭

私は日本人！日本語が話せるようになりたい



太極拳の型を披露する松倉さん

親の顔を知らない「わたしは、なにに生きていますか？」を尼崎の保育所で演じていた時、悲しくて、辛くて、涙が止まらず劇を続けることができなかった。自分の目の前にいた幼児たちが、母と別れた当時（2歳にもなっていない）の自分に重なったのかもわからない。

1945年敗戦の年、母はハルビンで松倉さんの子どものいない中国人の夫婦に託して三日後に亡くなった。幸い養父母はやさしく、貧しいながらも十分食べさせてもらい無事に育つことができた。

日本人のくせに！養母は教育熱心で、当時としては珍しく高校まで行かせてもらった。松倉さんは勉強が大好きで、得意なロシア語の通訳の仕事をしたいと、推薦で大学に

進学するつもりだったが、「日本人」だからと差別され、あきらめざるを得なかった。その後共産党青年団の政治活動に参加し、書記として「貧しい農村がよくなるように」と昼夜努力したが、やはり「日本人」だからと仲間はずれにされ党員になれなかった。

祖國に帰りたい！養母が亡くなり、本当の父母に会いたい、自分が何者か知りたいた。訪日調査に参加した。しかし肉親が見つからないまま、89年、45歳の時に家族で永住帰国した。

元氣の秘訣 朝早くから伊丹市へ電動自転車です55分もの距離を走って行き、大勢の仲間と太極拳をしている。

養父母への感謝 大切に育ててもらった恩を忘れず、これら子どもたちや孫にも伝えて生きていきたいと語る松倉さん。

初めて中国旅行 阿城の村を訪ねて 晴れたら青空の下に、一面のトウモロコシ畑が広がっていた。日本語教室学習者の中はつとさんが日本に帰国するまで住んでいたハルビンの南に位置する阿城の村である。

阿城の村でヤンギー踊りを楽しんだ 村の集落に善くと、道端の秋桜がやさしく私たちを迎えてくれた。その道の一番奥の素朴な煉瓦の家が、大ちゃんの大切な友である趙愛英さんの住居だった。約束もしないで訪ねたにもかかわらず、趙さんは再会を喜んでくれた。その顔は日に焼け、人なっかい目をしていて、二人は抱き合って喜び、傍で見ていた私たちも嬉しくなった。

まもなく別れの時が来て、村のみんなが見送ってくれた。家の中には、必要な物が最小限あるだけで家電もガスも水道もないが、美味しいマントウを作り、訪ねてきた人を温かくもてなし、心豊かにそして穏やかに暮らしている阿城の村の人たちに、尊敬と感謝の気持ちでいっぱいだった。

交流の広場

秋のバス旅行

みかん狩り 11月11日(火)、晴天風無し！8時40分にJR尼崎駅改札口集合。参加者は49名。その内には10組のご夫婦がいま



JR 尼崎駅に集合、日本語教室の旗を手にしているのは石井一郎さん

バスで和歌山県の有田市へ、有田市は至る所みかんが鈴なりでした。九鬼農園のみかん畑に入り、さっそく美味

その後、有田川の南側河川敷で昼食。各自思い思いに集まって弁当を食べました。秋の深まった有田川には川を下る鮎、空にはそれを狙う鳶が舞い、川の音も心地よく響いていました。九鬼農園さんが食後のデザートにとみかんの差し入れをしてくれました。嬉しかったです！

次は、和歌山県立自然博物館。入口の天井には「タリクシラ」の骨格標本が展示されています。黒潮の海の水

槽では、大きなロウニンアジやエイたちが泳いでいます。普通、水槽は正面からしか見せてくれませんが、ここは裏方の水槽の上からも見せてくれました。博物館で働く人達の現場を見て、とても印象深い体験でした！



泳ぐ魚を背景に記念撮影(和山有さん夫妻)

今回の旅では、パラグループ学習者の石井一郎さんが、進行係の通訳を務め、「コスモスの会」の旗を持って皆を先導しました。バスの乗降でも一人一人の足元に気を配るなど、「まるで添乗員さんのよう」と評判でした。

鮮やかな緑のみかん畑で、鈴なりのみかんを腹一杯食べたことに感動したり、今まで見る機会が殆どなかった水族館がとて珍しく、大きな水槽をバックに何枚も記念写真を撮ったことなど、とても楽しい旅行だったという感想を数多く聞きました。

なんで僕がフラダンスを？ 7月12日の文化交流教室で、フラダンスの講習会が開催された。「子どもからおじいちゃんおばあちゃんにまで親しまれ、美容と健康に良い」といううたい文句につられて参加した。



こんなスタイルでした 「では皆さん、はいスタート！あれれ、僕は初めから手足がバラバラ。自動車学校でいきなり脱輪したようなものだ。なんと無様な姿。気を取り直して動き始めたが予想通りロボットのような動きである。早く人間になりたい。

きつと壊れかけたロボットがギョギョッと動いているように。少しフレッシュャーを感じながら会場へ。参加者の殆どが女性で総勢15名。男は僕とNさんだけ。アロハにレイを着飾った女性軍のパワーをみると気後れがして逃げ出したくなった。

まずは簡単な手の動きから。講師の動きをみると簡単そうだがやってみると意外に難しい。波の動き、ヤシの木の揺れ方、月の動きなどがこちない動きをしながらついていくのがやっとな。手の動きを覚えるだけで僕はもう汗だく。周りの人は結構楽しそうに基本動作をマスターして

て歓迎してくれた。中でもマントウは実に素朴な味でも美味しく

食事後、家の前から延々と広がるトウモロコシ畑の中を「さわわく、さわわく」と口ずさみながら進んで行くと、子どもの頃に買ったような懐かしい気持ちになった。途中、畑に盛土があった。お墓のこと、墓標も何もなかった。

おお調子いいぞーうまい人はさらにうまく、それなりの人はいくらもいる。楽しんだ一日だった。(下)

主な行事	
5月11日	木工・スプーン
6月8日	生け花
29日	木工・スプーン
7月12日	フラダンス
9月28日	絵画・柿とホオヅキ
10月12日	尼崎市民まつり参加
10月19日	カギ針あみ指なし手袋
11月2日	パッチワーク
11日	みかん狩り
16日	手提げかばん
12月14日	健康体操

中国語おしゃべりサロンは7月～12月の間11回開催



阿城の村でヤンギー踊りを楽しんだ

それらから、金王朝の遺跡と博物館、抗日歴史博物館、東北烈士博物館、有名なソフィア寺院、松花江、ハルビン中央大街を短時間で見学した。ハルビンは予想より大都会で綺麗で無愛想な街だった。

2014年9月 吉村 清美